



主任コラム 7月号



主任 澤井 良子

最近保育の中で、年長さんに園の掃除や、0・1歳児が散歩から2階の部屋へ帰る際に階段を上る援助やオムツ交換など、数名ずつではありますが、ちょっとしたお手伝いをしてもらっています。「赤ちゃんのオムツ替えたよ」「お掃除した」と体験したことを友達に伝える姿がみられます。「〇〇ちゃんがオムツ替えたって本当なん？」と私に聞きにくることもあり他の子も「やりたい」と言う声があるので、先日、幼児棟の先生と相談し、5名の子にお手伝いをお願いすることにしました。

その日のお手伝いをしてくれると言ってくれた年長児は7名でした。子ども達に7名から5名にするにはどうしたらいいかな？と相談して一緒に決めることにしました。

澤井「この中から5人だけお手伝いをして欲しいんさ。でも7人いるよね？なんで5人かという、赤ちゃんのクラスにいっぱい行ってしまうと、赤ちゃんがびっくりしてしまうんさ。どうやって5人をみんなが納得いくように決めれるやろうか？」

I君「じゃんけんがいいけど、俺、絶対に負けるし、弱いし、お手伝いが出来やんのはいやや」

T君「じゃんけんしかない。でも5人やろ。7人おるしな」

I君「じゃあ、足じゃんけんは？鬼決めは？」

A君「鬼決め！」

T君「鬼決めはいいけど、お部屋で出来やんなあ」

と子ども達は色々と考えては思いを口にしていました。そこで

I君「あのさあ、紙に線書いて決めるやつあるやん。あれは？」

と意見を出してくれて、あみだくじで決めることになり、子ども達は線を入れ、あみだくじの書かれた紙を真ん中にワクワクして見ていました。無事に5人が決まり、他の2名は急遽支援センターにお手伝いに行くことが決まりました。その日は、各クラスの先生に会議の場所を伝えること、3・4歳児の午睡のお布団を敷くこと、ホールの床拭き、0・1歳児クラスのオムツ替えや手洗い・エプロンを付けるお手伝いをしました。5人の子は、楽しんでお手伝いをしてくれて「明日もやりたい！」と言いながらクラスへ帰っていきました。このことから、自分達の意見を出し合って、納得する決め方を見つけ出すことや、誰かに必要とされ貢献するという体験がこの幼少期には大切なのではと思いました。

先日参加した研修の講演で、なぜ今「非認知能力」という言葉が今言われ出し必要とされているのか・・・という話があり、昔は地域の中に異年齢集団があり、子どもの遊ぶ道具がなくても木や、石、缶などを用いて、頭と身体・心で遊びを考え作り出して遊んでいましたが、子どもの遊び場が減り、地域との交流がなくなっている現代では、子ども達が知恵を出して遊ぶこと（非認知能力＝知恵）をどこで身につけていくかという意識的・人工的に作っていく場が保育園しかなくなってきた・・・というお話でした。今の時期に人として必要な「共感力」「自分の意見を相手に伝える」「相手の意見を聞き、耳を傾ける」「尊重され必要とされる」という事をこれからの時代を生き抜いていくために、子ども達にはたくさん保育の中で体験して欲しいと思います。